

祝 舌辛

卒業生、修了生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、宮崎県立看護大学という学舎で、それぞれの夢の実現に向かって、日々、高度な看護理論と技術の修得に励まれ、めでたく卒業・修了の日を迎えられました。

また、この日を待ち望んでおられた御家族の皆様や学校関係者の皆様も、さぞかしお喜びのことと、心からお祝い申し上げます。

県立看護大学は、平成9年に九州で初めての県立の看護大学として開学して以来、本県における看護の教育、研究、研修の中核機関として、看護の専門的知識と高度な技術を持ち、あらゆる分野で活躍できる優れた人材を養成してまいりました。

これまでに卒業・修了された約2,100名の先輩たちは、県内外の医療機関等で活躍され、看護職としての高い資質のみならず、県立看護大学で育まれた、人を思いやる温かい心や豊かな人間性が高く評価されていると伺っており、私としても大変嬉しく思っているところであります。

皆さんも、新しい環境での期待や不安など、様々な思いがあると思いますが、県立看護大学の卒業生・修了生としての自信と誇りを持って、それぞれの職場で存分に力を発揮していただきたいと思っております。

さて、我が国では、国民の4人に1人が75歳以上となる2025年問題をはじめ、在宅医療・介護の在り方など、医療に関する多くの課題を抱えております。特に、本県においては、全国を上回るスピードで高齢化が進んでおり、医療の現場を支える人材の確保と資質の向上が急務となっています。

また、昨年から新型コロナウイルスの感染が世界規模で拡大し、県民生活や地域経済、そして医療現場にも大きな影響が生じています。

このような中、看護職者は、医師とともに医療を担いながら、患者や高齢者の方々を最も身近で支える存在であり、皆さんに求められる役割は、今後ますます大きくなってまいります。

大変な仕事ではありますが、この道を志したときの気持ちを忘れることなく、強い信念を持って困難に立ち向かい、命の尊さや患者の気持ちの分かる看護職者として、社会に広く貢献されますことを大いに期待しております。

県立看護大学は、「まもりたい笑顔がある 郷土がある」というキャッチフレーズのもと、「地域社会と連携し、本県の保健・医療・福祉の充実に貢献する大学」を目指して、地域と連携しながら、実践力のある看護職者の育成や、県内の看護職者の資質向上に取り組んでおります。

皆さんの中には、県外に就職される方もいらっしゃると思いますが、お一人お一人が郷土への誇りと愛着を胸に、自己研さんに努めていただくとともに、いつの日か、是非宮崎に戻ってきていただき、本県の保健・医療・福祉の充実にお力添えいただきますようお願いいたします。

結びに、皆さんの門出を祝福するとともに、輝かしい未来を祈念いたしまして、祝辞といたします。

令和3年3月16日

宮崎県知事 河野 俊嗣